

子どもたちの豊かな表現活動を導き出すための試み

伊藤 昭 博

【要旨】

保育現場において子どもたちの表現をいかに保育者は受け止め、発展させていけるのか保育者にとっては大きな課題になっているように見受けられる。ここでは、造形表現での表現素材と表現技法に着目し、子どもたちの表現を豊かにしていくための保育者の関わりについて考えてみたい。

保育者が表現素材の特性を理解することで、子どもたちに提供する素材を吟味し、表現技法を修得し、実践することで、子どもたちの表現活動を豊かにするためのきっかけになるのではないかと考える。

更に保育現場における造形表現技法の活用方法を考えることで、技法あそびに留まることなく、豊かな造形表現によってもたらす効果について考察したい。

【キーワード】

表現活動 造形表現 表現技法 技法あそび 表現素材 保育環境

1. はじめに

子どもたちの造形表現を豊かなものにするためには、まず表現素材への感心興味をいかに持たせるかが重要である。保育者は表現素材の特性を知り、そこから子どもたちの創作意欲がわくような素材の提供や制作空間の確保を考える必要がある。また、提供する素材が子どもたちの視覚や触覚に対し魅力的なものでなければならない。その上で創作するためのきっかけ作りも大切な時間となる。例えば、水族館や芋掘り行った体験を思い起こしながら、作品制作につなげる場合も表現素材となるものを子どもたちが興味をもって扱い、様々な工夫ができるようなフレキシブルな素材であるか保育者は吟味しなければならない。当然のことであるが、保育者は表現素材の特性を書物やインターネットから得

た知識だけではなく、実際に扱ってみることで素材の持つ可能性を感受しなければならない。

これらのことを踏まえ、表現素材にはどのようなものがあり、またそれらを扱った表現技術にはどのようなものがあるのかを解説を交えながら活用方法について探ってみたい。更に、その表現技術を生かした絵本にも着目し、絵本作家のエリックカールの作品を参考に子どもたちの豊かな表現活動を展開できるようなヒントになるものを考えてみたい。

2. 保育現場での表現素材と道具類について

まず、多くの保育現場で使われている表現素材、道具類としては、次のものが挙げられる。

表現素材としては、クレヨン、水彩絵の具、アクリル絵の具、新聞紙、広告紙、段ボール、

和紙、カラーセロハン、フェルト、粘土、紙粘土、紙コップ、紙皿、ストロー、すずらんテープ、ビニールテープ、割り箸、毛糸等である。

道具類としては、ハサミ、段ボールカッター、のり、木工用接着剤、セロテープ、両面テープ、ホッチキスなどである。

3. 保育現場で活用できる表現技法

(技法あそび)^{1), 2)}

保育の現場で活用できる表現技法（技法あそび）では以下のようなものが挙げられる。ここでは、その表現技法についての解説と活用方法について述べていくことにする。

(1) マーブルリング

マーブルリングは、水に反発する描画材をバットにはった水に落とすことで、水面上に描かれる複雑な模様や図柄を、紙などに写し取る技法で、マーブルリングによって写し取られた模様が大理石（marble：英）の模様 に似ていることに由来している。水に浮いた描画材に串などで模様を描き、空気が入らないように気をつけて水面上に紙を置き、描いた模様を写し取る技法である。

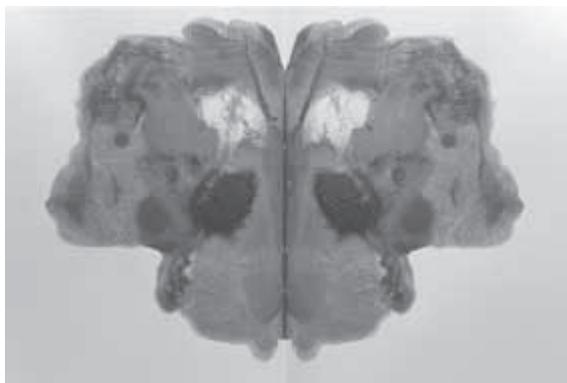


活用方法①：マーブルリングをした紙を様々なサイズで円形に切り取り、黒い色画用紙上に貼り合わせ宇宙空間を制作する。マーブルリングされた色合いはいろんな種類の色があるため宇宙空間に浮かぶ惑星の表現に適している。また、黒い画用紙上に無数の細かな色合いの絵具をドリッピングすることで宇宙空間の広がり表現できる。

活用方法②：マーブルリングの便箋と封筒でレターセットを制作する。便箋はB5～A4サイズのコピー紙、封筒は型紙により淡い色合いの色画用紙を切り取りマーブルリングを行う。便箋と封筒は新聞紙で挟み水分を取った後乾燥させ、封筒は形に合わせて折り込み糊付けをして完成となる。

(2) デカルコマニー

デカルコマニーは、半分に折った紙の片方に色の違う絵の具を何色か着けることで、紙を開いたときに左右対称の作品を描くことができる。また、現れた模様見え方も見る人によって様々ため、思いもよらない作品が出来上がる楽しい表現遊びの1つでもある。



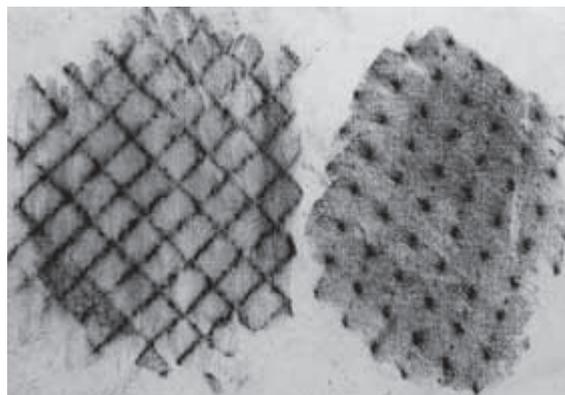
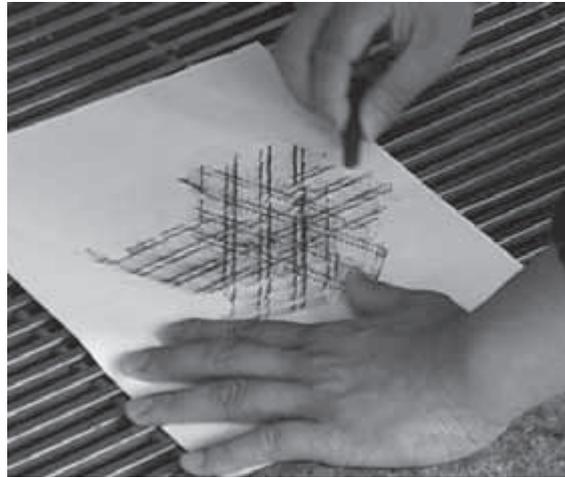
活用方法①：デカルコマニーによってできた形をハサミで切り取り、蝶や花に見立て、模造紙や色画用紙に貼り合わせ季節の壁面を制作する。空きスペースにクレヨンや絵の具で周りの風景や動物たちを描き込み全体の空間を創り上げる。動物たちの表現は、折り紙で制作することで表現の幅を持たせることができる。

活用方法②：デカルコマニーによってできた形をハサミで切り取り、蝶に見立て、新聞紙を丸めた棒の先に接着し、蝶がひらひらと舞っているような動きを演出する遊びにすることができる。

(3) フロッターージュ

フロッターージュ（こすりだし）とは、表面のでこぼこした木の板や石、硬貨などの上に紙を置き、その紙を鉛筆やクレヨンなどで擦ること

で、紙の下にある木や石などのでこぼこが模様となって写し出される技法のことである。紙の移動や回転させるなどして、偶然にできる色や形を楽しむことができる。



活用方法①：1枚の紙に硬貨などをずらしながらフロッターージュすることで円形が重なり合った集合体を表現することができる。また、硬貨や鍵型、定規、コンパス等の配置を意識しながらフロッターージュすることで人の顔や動物や虫の形を表現することができる。他にも、自然物である木の葉っぱや松葉の形状を動物や虫の体の一部に見立てフロッターージュすることで自然界の風景を表現できる。

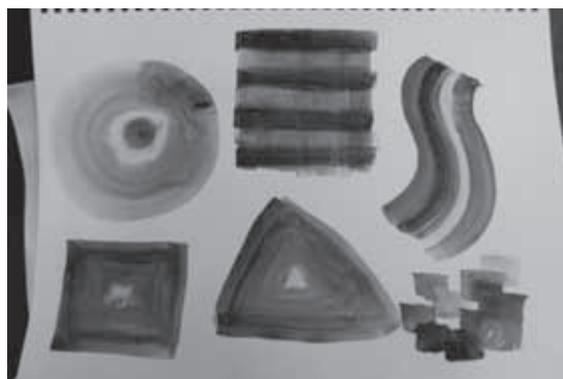
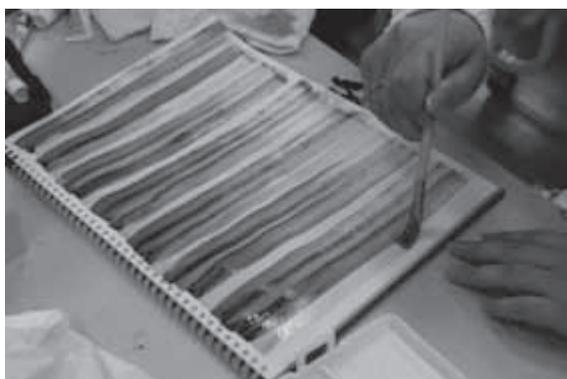
活用方法②：フロッターージュした人工物（マンホール、タイル、壁の模様等）や自然物（葉っぱや樹木の皮等）の形を切り取り、それらを貼り合わせ（コラージュ）することで描画材では表現できない世界を表現することができる。

(4) コラージュ

コラージュとは、クレヨンや絵の具などの描画材を用いるのではなく、落ち葉や色紙など、様々な色、柄、質感のものを張り合わせて表現する技法のことである。フランス語で「糊付け」という意味の、現代絵画の技法の一つで、パブロ・ピカソやジョルジュ・ブラックなどが始めたパピエ・コレが始まりといわれている。自分の好きな素材を使い、好きに貼り付けていくことで想像力が鍛えられる表現遊びでもある。

活用方法①：広告紙やカタログ等の印刷物の一部や質感の異なる様々な素材（段ボールの切れ端や毛糸等）を画用紙上に貼り合わせ不思議な世界を表現することができる。

活用方法②：画用紙にいろんな色合いの色を塗り込み、様々な形に切り取ったものを組み合わせて絵本の1コマを表現することができる。方法は美しいと思う4色のアクリル絵の具の組み合わせを選び画用紙に線（ストライプ）を描いたものを1枚制作する。また、もう1枚は6種類の図形（丸、三角、四角、波、格子、点）を4色で描いたものを制作する。その後、ハガキサイズに切り抜いたフレームを作り、ストライプと図形にフレームをあて絵本の1コマで活用できる部分を切り抜く。切り抜いた余りの部分で絵本の表現となる形を貼り合わせ1コマを完成させていく。



(5) スタンピング

身近にあるものを版に、絵の具などを着けて判子のように使って描く技法を、スタンピング（型押し絵）という。素材はペットボトルのキャップや皿、スポンジ、段ボールといった日常で使うものやニンジン、ピーマン、玉ねぎ、イモなどの野菜などを自由に型押しすることで新しい模様に出会える楽しい遊びである。絵がうまく描けない小さい子どもでも簡単に取り組み、楽しむことができる。

活用方法①：人口物であるコップやペットボ

トル底やキャップ、様々な形体物にいろんな色を着け、大きめの模造紙や画用紙に型押しして絵画表現を楽しむことができる。色や形の重なりによってあるものに見立てたり、子どもたちの遊びの痕跡がリズムカルで色鮮やかな世界を創り出すことができる。

活用方法②：自然物である木の葉っぱや枝、松ぼっくりやドングリ等にいろんな色を着け、大きめの模造紙や画用紙に型押しして絵画表現を楽しむことができる。色とりどりの自然物の柔らかな表情が風を感じるような表現に出逢うことができる。また、布にアクリル絵の具で型押しすることでタペストリーや運動会の旗等を制作することも可能である。

(6) スクラッチ (ひっかき絵)

ひっかき絵とは、スクラッチ技法、削り絵などとも呼ばれる保育の描画技法である。画用紙に、あらかじめ隙間のないよう色鮮やかなクレヨンで何色かを塗り、その上から黒いクレヨンやアクリル絵の具で上塗りしていく。その後、上塗りの黒色を、先の尖ったもので削ると下の層の色が出てきて、偶然にできる色や形を楽しむことができる。

活用方法①：カレンダー作りなどで季節のモチーフを描いたり数字を描き込んだりすることで色彩豊かな表現ができる。

活用方法②：花火大会の様子や海の中の生き物の世界を表現することができる。更に子どもたちの作品を繋ぎ合わせることで大作を制作することができる。

(7) はじき絵

バチック (はじき絵) とは、クレヨンやロウなどで絵や模様を描き、その上から多めの水で

溶いた絵の具を塗ると、クレヨンやロウの油分が絵の具を弾いて、思いもよらない色や模様・形を楽しめるという表現技法の一つである。

4. 絵本の世界の表現技法³⁾

ここでは、絵本の世界の表現技法に着目し作者が絵本の世界観をどのような技法で制作しているのかを探ってみたい。

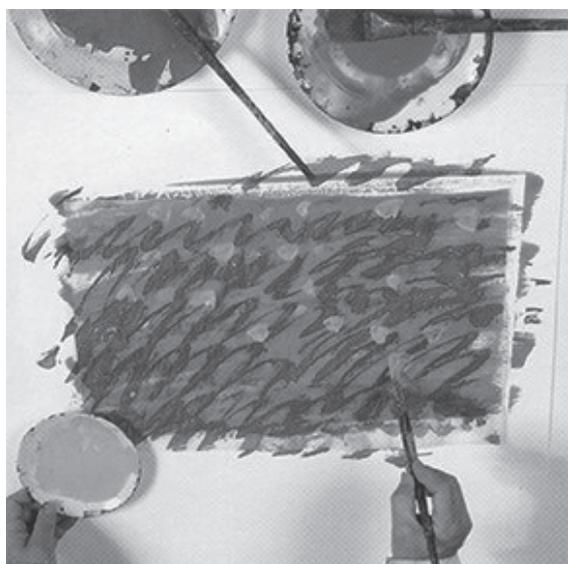
「はらぺこあおむし」「パパ、お月さまとって！」の作者のエリックカールは、様々な色合いで着色した紙をランダムに切り取り、コラージュという技法で制作している。

制作過程は以下である。

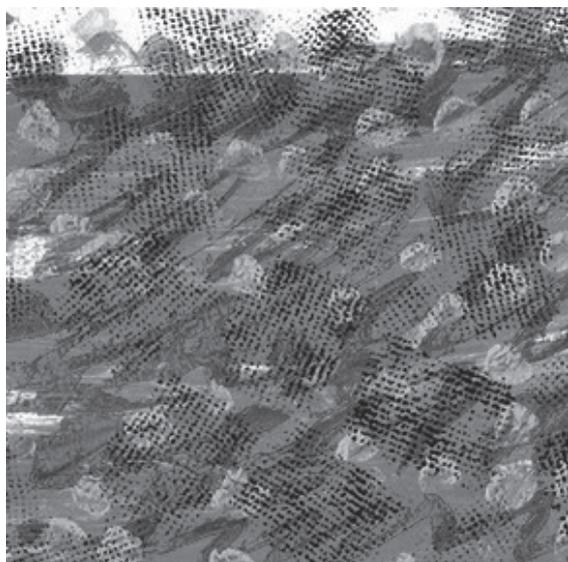
- (1) 半透明の薄い紙にアクリル絵の具、水彩絵の具、ポスターカラーなどで着色する。



(2) 別の色の絵の具で、いろんな色の模様を描いていく。



(3) たくさんの模様を描いて色紙を制作する。



(4) (1)～(3)のように作った薄紙の上に、あおむしを描いたトレーシングペーパーを載せて切り抜く。



(5) 切りぬいた薄紙を、場所を考えながら画用紙に貼っていく。

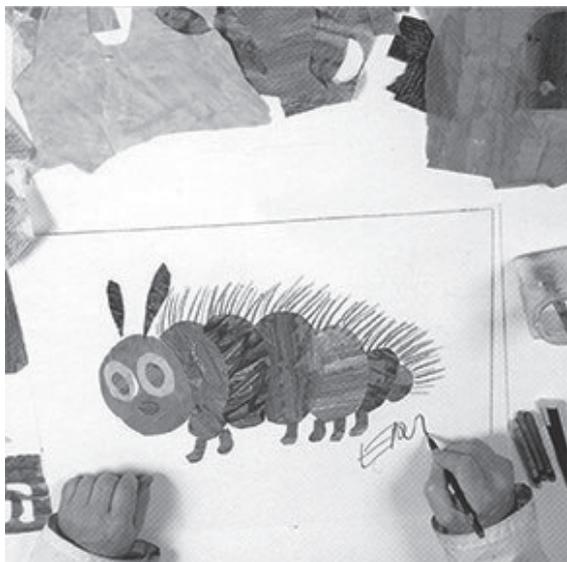


(6) 目や鼻などもつくって貼り込んでいく。

h



(7) クレヨンや色えんぴつで毛を描いて仕上げる。サインを入れ完成となる。



5. 考察

以上、保育現場で行われている表現技法（技法あそび）と絵本制作で使われている表現技法を紹介したが、子どもたちが技法あそびで終わるのではなく、保育者が子どもたちへの言葉かけや表現素材の提供の仕方によって表現されたものが如何様にも変化し発展していくのが重要であ

る。

表現技法の活用方法については、この他にも子どもたちの技法あそびの取り組み状況を観察しながら、表現素材の提供を考え工夫をしながら保育を行う必要がある。子ども一人ひとりの技法あそびは、周りの子どもたちにもよい影響を及ぼすことも認識しておく必要がある。例えば、スタンプングにより様々な形体の型押しをしていく中で、おもしろい模様や美しい色合いが表現されてきた時に近くにいた子どもが、「すごい。かっこいい。きれいだ」と反応を示した場合、同じ形体の型押しで真似てみたり、「それ、かして。」と言ってみたりと子どもたちの新たな行動が生まれてくることに保育者は注視していくことが大切である。子どもたちは、技法あそびの中で画用紙上に次から次に生まれてくる世界を楽しみながら他者とのコミュニケーションを図っているのである。

その状況を観た保育者は、子ども一人に1枚の画用紙ではなく複数の子どもたちで関わるができるような大きな模造紙か長めのロール紙でスタンプングをしたら、もっと子どもたちの技法あそびが発展し、造形表現が豊かなものになることを想像できるのではないだろうか。このように保育環境の中で展開される子どもたちの活動を敏感に感じ取り、表現素材を考え工夫することが保育者には要求されるのである。

6. まとめ

子どもたちの豊かな表現を導き出すためには、単なる技法あそびを体験させることではなく、表現素材の面白みや不思議さを実感してもらい、そこから子どもたちの「あそび」へと発展し、周りの子どもたちと一緒に表現できる喜びと達成感を共感することが重要である。保育者も子どもたちと同じ目線で一緒に感動できるような時間を共有することで、新たな表現活動を考えるきっかけになる。また、保育環境にお

いても、子どもたちの自発的な活動を促せるような空間を構築しなければならない。表現素材を子どもたちが自由に取り出せるような空間の工夫や道具類の提供の仕方や使い方等、安全面での配慮も必要である。子どもたちの豊かな表現活動を支えるためには、保育者自身が、表現素材の特性を理解しておくことは大切であるが、その特性を上手く活用し、子どもたちの創作意欲をわかせていけるような工夫が必要である。そのためには、保育者自身が実際に表現素材を使ってみながら、子どもたちの活動と照らし合わせ、どのような表現活動に展開しているのかを見極めていくことが大切である。また、子どもたちの活動範囲や活動時間、年齢や人数も把握しておくことで保育者は様々な表現活動を豊かなものにしていくことができる。

以上、保育現場での表現技法と活用方法について解説を交え記述してきたが、子どもたちの豊かな表現活動を展開していくためには、養成校と保育者との情報交換や相談機関を充実させていくことも今後の検討課題である。

引用文献

- 1) 楨英子 「保育をひらく造形表現」 2008年 萌文書林 東京都文京区本駒込6-25-6 P133～P136
- 2) 武蔵野美術大学造形ファイル <http://zokeifile.musabi.ac.jp> 2020.1.30
- 3) エリックカールスペシャルサイト <https://www.kaiseisha.co.jp/special/ericcarle/about/> 2020.1.30